# 地域で支える子育て

男衾小学校PTA会長
杉田　英二

日ごろより、保護者、地域の皆さんには児童生徒の健全育成にご協力いただき感謝申し上げます。

子育てとは、自立する人間を育てることではないでしょうか。自立とは誰にも頼らず生きていくことではなく、人間関係を上手につむぎながら、その中で自分らしく生きていくことだと思います。私たちは周りの人たちとつながり支え合いながら暮らしています。

以前なら普通にあった地域の人々との多様な関係。祭りなど大人になるための通過儀礼。おもいっきり体を動かせる空き地や原っぱ。みんなで作った秘密基地。少なくとも親の世代までは、そこで自然に社会と自分自身との関わり方を学ぶことができていました。しかし、これらがなくなってしまった今、子どもたちは周囲の世界と関係を選ぶ技術を学ぶことが難しくなっています。

さらに、時代が進む中で人々のライフスタイルが変わり、子どもの数が減り、親同士の付き合いや地域との関わりも薄くなってきています。

このような現代で、地域社会での各種スポーツ団体の功績は計り知れません。礼儀や我慢、豊かな人間性や社会性を育むことのできるよい機会です。

しかしながら、近年は運動に関心や興味を持つ子どもが減少しています。それを解消するには、幼少期から体を動かす楽しさを知ってもらうことです。安心・安全な場所を提供するために公園や学校の一部を芝生化する取り組みが、全国的に増えていると聞いています。そのような場所では、子どもたちの精神衛生や運動能力、環境によいというだけではなく、地域の人々が芝生を管理することで一つのコミュニティが生み出されているとのことです。

豊富な知識と経験のあるシニア世代の方々にご尽力をお願いするとともに、「教育の基本は家庭である」と親が強く自覚する時だと思います。学校と家庭、地域が連携し、子どもたちの健やかな成長を促す取り組みをしていきたいと考えています。今まで同様、ご指導よろしくお願いします。

# 次世代の可能性を信じる

寄居町青少年相談員
協議会代表
柴﨑　浩

私たち青少年相談員は、町内の小学生を対象に夏のキャンプを主催し、関係団体や各地区事業のお手伝いなどを主な活動としている青年ボランティアです。

埼玉県知事から委嘱を受けて活動を行っており、地域の子どもたちのよき友、よき理解者となるべく「思いやりと誠実をもって青少年の友となる」、「人間の可能性と価値を信じ、青少年の力となる」、「自覚と誇りをもって、明るい社会づくりのために励ましあう」これら3つの信条を掲げています。

事業を行う際、子どもたちに自分で考える力を育むようにしています。野外炊事を行い「共同作業」の大切さについて学ぶ場面では、料理を作るところまでは協力して作業ができます。遊んでいる子どもに対して手伝うよう注意することは簡単で、言うことを聞いてくれるかもしれません。ただ、それでは目標がなく、言われたことをするだけです。そういった場合には、私たちはコミュニケーションをとり「何をしているの？」といった質問を投げかけるようにしています。そうすると「共同作業」を放り出して遊んでいる子どもたちは自分がしなければいけないことを自覚してくれます。子どもたちはとても素直で興味があることに気が向いてしまいます。「したいこと」、「しなければいけないこと」を見極めるきっかけ作りを提供するだけで、「しなければいけないこと」はわかっていると思います。

青少年相談員にはキャッチフレーズ「若い力と子どもの目線　むすんでのびる　彩の国」があります。これからも子どもたちの「可能性」を信じて支える力となるべく、より身近なお兄さん・お姉さん活動を続け、次世代への笑顔あふれる地域づくりに貢献したいと思います。





# インターネット利用について見直そう
## ～インターネット見守り活動～

私たちの生活の中に欠かせない存在となった携帯電話やパソコンなどのインターネット端末。その普及のスピードには目を見張るものがあります。内閣府が平成24年度に行った調査によると、青少年の携帯電話の所有率は中学生で約5割、高校生では9割台後半と高い水準になっています。

これらの機器は便利な反面、所有率が上がるにつれ、青少年が有害情報を閲覧する、SNS利用による犯罪被害に遭うなどトラブルの原因となっています。このようなトラブルを防ぐためには、保護者の見守りが不可欠です。これまでの見守り状況を見直し、お子さんとインターネットの利用方法について話し合ってみましょう。

## ネットトラブル
### ～ネットいじめについて～

Aさんは中学2年生、中学校入学と同時に自分専用のスマートフォンを買ってもらいました。最近部活の友人同士でグループを作成し、毎晩遅くまでグループチャットをしていました。連日深夜まで起きていたため寝不足が続き、ある晩チャットの途中で眠ってしまいました。朝起きると、チャットの画面には「A、無視するなんて最低」の文字が。慌てて弁解したものの、チャットのグループから外され、部活内では無視されるようになってしまいました。ネット上で知り合った見知らぬ相手とトラブルになる場合とは別に、学校の友人とのトラブルがネットいじめへと発展する場合があります。

**具体的な内容は**

・インターネットの掲示板に悪口を書かれる

・友人同士で作ったチャットグループからはじき出される

・グループチャットの中で延々と悪口を書かれる　など

自分専用のスマートフォンを持っているため学校だけでなく自宅でもいじめが続き、被害者は気の休まる時がなく追い詰められてしまいます。また、グループチャットではメンバーとして認証されないとチャット内の会話を読むことができないものもあり、外部から問題を発見しにくくなっています。このようなネットいじめを発見するためには、保護者の見守りが不可欠です。子どもの様子、スマートフォンを使用しているときの表情などをよく観察してみましょう。

## 活用しよう！フィルタリング

Bさんは小学生の息子C君がコンビニの前で携帯ゲームをしているのを見かけました。帰宅後、お店の前でゲームをするのは行儀が悪いのでやめるように注意すると「ゲームじゃなくて○○のホームページを見ていたんだよ」と言われました。詳しく聞くと、コンビニのWi-fiを利用してインターネットをしていたそうです。ゲーム機でインターネットができると思っていなかったBさんはとても驚きました。ゲーム機を使ったインターネット利用についてさらに詳しく調べてみると、携帯電話に使用するのと同じようにゲーム機にもフィルタリング機能があることを知りました。

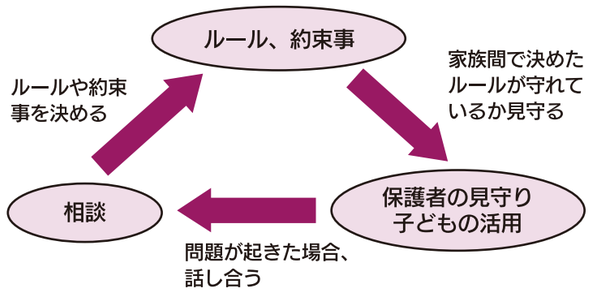
青少年のインターネット利用に対して保護者の見守りは大切ですが、すべてを見守ることができるわけではありません。そこで、各企業が提供しているサービスを上手に活用し、インターネット利用の見守りに役立てましょう。

企業が提供しているサービスの一つにフィルタリングがあります。フィルタリングとは青少年にとって有害なサイトを識別し、アクセスできないようにするサービスです。平成24年度に内閣府が行った調査によると、青少年の携帯電話のフィルタリング利用率は約65％となっており、半数以上の青少年の携帯にはフィルタリングがかかっています。

しかし、今フィルタリングが必要なのは、携帯電話だけではありません。Wi-fi等の無線LAN環境下では、携帯ゲーム機器でもインターネットに接続することができます。ゲーム機器のフィルタリング利用率は、「使っている」が約25％、「使っていない」が約57％と、倍の数値となっています。自分のお子さんの携帯ゲーム機器の設定を一度見直してみましょう。

## 保護者の役割

図書館へ行かなければわからなかった事柄が、自宅にいながら手軽に調べられるようになりました。その反対に、いたずらの延長の書き込みが警察沙汰に、軽い気持ちで書いた悪口がいじめに発展してしまうこともあります。インターネットはとても便利で、自宅にいても世界中の人間とつながることができます。これはインターネットの長所であると同時に短所です。

トラブルに巻き込まれないようにするということは、青少年にとって有害な情報を含んでいるサイトを排除すればいいわけではありません。最も大切なことは親や周囲が使用方法を見守り、子どもが被害に遭うのを防ぐだけでなく、他者に迷惑をかけないような使い方を教えることです。

インターネットは今後も発展し、ますます私たちの生活と深く関わってきます。インターネットの悪い面のみを見て、安易に使用を禁止するのではなく、どのように使用したらいいかのルールや約束事を家族で確認していきましょう。